

自ら学び、他と協働して課題を解決する生徒の育成

《令和4年度前期との比較》

※評価方法は裏面に記載

＜視点1＞【子供たちが安全・安心に学べる学校】

取組の重点…目標数値・改善策(●)	アンケート結果				自己評価	成果と課題及び分析	改善策・最終評価での目標数値	
【課題①】生徒主体の活動【久田・全職員】 【目標数値:生徒「自分にはよいところがある」80%】 ○生徒中心の活動・相互評価場面 ●生徒会活動や各種行事で、生徒を中心に据えた活動となりよう見直し、自分たちで「できた」「やれた」という達成感を感じられるものに変える。 ●活動や行事の振り返りで、友だちのがんばりを評価する場面を必ず設定し、互いのよさや頑張りを認められるようにする。 ○話し合うことよさ・大切さ ●あらゆる意見・考えを認め、改めて話し合うよさ・大切さに気づかせるようにする。また、決定すべきことはできる限り多くの意見をまとめたものとし、自分(の意見・考え)も大切されているという感情を持たせるようにする。 【課題②】学校のきまり【田中・玉置】 【目標数値:生徒「学校のきまりを守って、生活している」100%】 ○生徒による生活目標の設定および遵守 ●毎月の生活目標を設定し、月ごとに振り返りながら、今守るべききまりに優先順位をつけ、1つずつ徹底させていく。	生徒	学校は楽しい。	91%	➡	a	4	○「自分にはよいところがある」が改善(+7%)されてきている。 △互いのよさを認め合ったり、自分は大切にされていると感じる場面は増えていない。 →具体的な共通実践内容を実行する必要がある。 ○生徒の「学校のきまりを守って、生活している。」は、中間の86%から改善された。 ○生徒の93%は「みんなで協力して何かをやり遂げ、うれしかったことがある」と答えている。 ○保護者もいじめに対する取組等に理解を示してくれている。 ○保護者の98%は、「学校は、生徒の安全を守るために努力している。」と思っている。	【課題①】自己肯定感の向上【久田】 <改善策> ○学級活動での互いを認め合う活動
	保護者	お子さんは、「楽しそうに学校に行っている」と思いますか。	89%	➡	b	3		
	生徒	困っている友だちがいたら、助けてあげようとしている。	97%	➡	a	4		
	生徒	自分にはよいところがある。	76%	➡	c	2		
	保護者	学校は、親切・思いやりの心を育てようとしていると思いますか。	98%	➡	a	4		
	生徒	学校のきまりを守って、生活している。	91%	➡	a	4		
	教員	生徒が学校のきまりを守り、安全に生活できるよう指導している。	100%	➡	a	4		
	生徒	みんなで協力して何かをやり遂げ、うれしかったことがある。	93%	➡	a	4		
	保護者	学校は、いじめのない学校づくりに積極的に取り組んでいると思いますか。	98%	➡	a	4		
	教員	先生は、子ども達のことをよく理解しようとしていると思いますか。	98%	➡	a	4		
	保護者	生徒同士のよりよい人間関係づくり(いじめ・不登校の未然防止)に努めている。	100%	➡	a	4		
	教員	生徒の小さな変化に気づいたときは、すぐ行動している。	100%	➡	a	4		
保護者	学校は、生徒の安全を守るために努力していると思いますか。	98%	➡	a	4			
教員	定期的に危機管理マニュアルを確認して行動している。	82%	➡	b	3			

3.7

＜視点2＞【生徒の確かな学びを保障する学校】

取組の重点…目標数値・改善策(●)	アンケート結果				自己評価	成果と課題及び分析	改善策・最終評価での目標数値	
【課題③】学力向上【森岡】 【目標数値:教員「個々の習熟の状況に応じて、補充的・発展的な指導を行っている」90%】 ○補充的・発展的指導 ●「補充的・発展的な指導」のあり方の具体を共有し、指導をすすめる。 【課題④】家庭生活の見直し【田中・滝井】 【目標数値:生徒「毎日、家庭学習の目標時間を守って取り組んでいる」80%】 ○家庭学習の取組の改善 ○ネットとの上手な付き合い方 等 ●家庭学習に取り組む必要性や取り組み方、ネットとの上手な付き合い方について、保護者とも連携しながら具体的な指導をすすめる。	生徒	授業の内容はよくわかる。	78%	➡	c	2	○「補充的・発展的な指導」について、行っていると回答した教員が100%であった。 △授業や学習に関する生徒・保護者の回答が8割を下回った。 →一斉指導の場面で生徒の主体性を伸ばしたり、協働的な学びを充実させたりする工夫が足りていないのではないかと。 △生徒・保護者の「学習時間、生活リズム、インターネット」に関わる項目の数値が低い。 →教員は指導を行っているが、現状を見ると、家庭との連携が上手く行っていないと感じる。 →家庭学習の必要性や、生活リズムを整えることの大切さ、インターネットの利用の仕方について、様々な方面から継続してアプローチしていく必要がある。 ○生徒の91%が「学校では、生徒同士でお互いのがんばりを認め合う場面がある。」と答えている。	☆【課題②】授業改善【森岡】 <改善策> ○テンポ ○教師の発話量 ○生徒の活躍 ☆【課題③】家庭生活の見直し【田中・滝井】 <改善策> ○家庭学習の取組の改善 ○ネットとの上手な付き合い方 等
	保護者	お子さんは、授業(勉強)の内容がよくわかると感じていますか。	68%	➡	c	2		
	教員	個々の習熟の状況に応じて、補充的・発展的な指導を行っている。	100%	➡	a	4		
	教員	分かりやすい授業となるよう、ICT機器(モニター・タブレット等)を効果的な活用に努めている。	100%	➡	a	4		
	生徒	授業では、学び合い(対話)によって、自分の考えが深まっている。	83%	➡	b	3		
	教員	言語活動を重視し、生徒に説明・記述させる授業への改善をすすめている。	100%	➡	a	4		
	生徒	毎日、家庭学習の目標時間を守って取り組んでいる。(1年60分、2年70分、3年80分)	41%	➡	d	1		
	保護者	お子さんが家庭学習に取り組む姿勢は、十分だと感じていますか。	42%	➡	d	1		
	教員	普段の家庭学習の量や質が改善するように指導している。	86%	➡	b	3		
	生徒	五定点を守って生活している。(起床・朝食・夕食・就寝の時刻)	52%	➡	d	1		
	保護者	お子さんは、早寝・早起きをしていますか。	51%	➡	d	1		
	教員	五定点を守った生活となるよう指導している。(起床・朝食・夕食・就寝の時刻)	100%	➡	a	4		
	生徒	家で、インターネットは1日にどれくらい使っていますか。(A:30分未満 B:30分~1時間未満 C:1時間~2時間未満 D:2時間以上)	29%	➡	d	1		
	保護者	お子さんと、インターネットの使用についてのルールを決めていますか。	67%	➡	d	1		
	教員	ネット利用のきまりの必要性や守ることの大切さを指導している。	88%	➡	b	3		
	生徒	学校では、生徒同士でお互いのがんばりを認め合う場面がある。	90%	➡	a	4		
	生徒	先生はがんばったことをほめたり、認めたりしてくれる。	86%	➡	b	3		
	保護者	学校は、「学び合い・認め合い・高め合い」によってお子さんの力をのばそうとしていますか。	96%	➡	a	4		

2.5

＜視点3＞【職員が協働し高めあい確かな指導力を育成する学校】

取組の重点…目標数値・改善策(☛)	アンケート結果					自己評価	成果と課題及び分析	改善策・最終評価での目標数値
【課題⑤】業務改善【山野】 【目標数値:職員「PDCAサイクルを回した業務となるように努めている。」100%】 ○PDCAサイクルを回した業務 ○平準化・効率化に向けた対応 ●若プロで、標記を学ぶ機会を設定し、PDC Aサイクルを回した業務へ改善をすすめる。 ●業務の抱え込みとならないよう、校務分掌を適宜見直し、業務の平準化・効率化をすすめる。	教員	本校の教育目標を具現化して、教育活動に取り組んでいる。	100%	➡	a	4	○【目標数値:職員「PDCAサイクルを回した業務となるように努めている。」100%】を達成できた。 ○数値はいずれも100%、または前回より向上している。	
	教員	PDCAサイクルを回した業務となるように努めている。	100%	⬆	a	4		
	教員	自らの職責を果たすために、教師としての力量が高まるよう努めている。	100%	➡	a	4		
	教員	業務の効率化をすすめ、午後7時30分までに退校している。	82%	⬆	b	3		
3.8						C ↓ A		

＜視点4＞【地域社会の一員として信頼される学校】

取組の重点…目標数値・改善策(☛)	アンケート結果					自己評価	成果と課題及び分析	改善策・最終評価での目標数値
【課題⑥】地域体験活動【久田・各学年団】 【目標数値:生徒との「地域の人・もの・ことから、いろいろなことを学んでいる。」80%】 ○計画の見直し・実践 ○まちの先生の活用(学期に1回) ●2・3学期の教育計画の中で、まちの先生の活用場面を洗い出し、各学年・各学期1回以上まちの先生を活用した学習活動を行う。	生徒	地域の人に、自分からすすんであいさつをしている。	90%	➡	a	4	○生徒の評価は、前期とほぼ変わらず(-2%)だが、90%の生徒が肯定的評価であるのは評価できる。 ○生徒の「地域の人・もの・ことから、いろいろなことを学んでいる。」は前期から+2%であった。 △一方で、3年生の否定的回答が増えた。海洋学習・キャリア・地域学習について、生徒が思う学びとのずれがあるのではないかと。 →探究のスパイラルを回した学習活動の展開を工夫・充実させていく。 ○保護者はほぼ100%で肯定的である。 △教員は「あてはまらない」が+7%となっている。 →もっと情報発信できることはあったのではないかと評価しているのではないかと。(積極的な姿勢ととらえる。)	
	保護者	お子さんは、すすんで挨拶ができていますか。	82%	➡	b	2		
	生徒	地域の人・もの・ことから、いろいろなことを学んでいる。	66%	➡	d	1		
		地域の行事には進んで参加している。	47%	➡	d	1		
	保護者	お子さんは、地域のよさや大切さを感じていますか。	82%	➡	b	2		
		学校は、地域と連携した体験活動にすすんで取り組んでいると思いますか。	96%	➡	a	4		
	教員	まちの先生を積極的に活用している。	90%	⬆	a	4		
	保護者	学校は、保護者との連絡を密にしていますか。	98%	➡	a	4		
		学校からの各種便りやホームページでの情報発信は、十分ですか。	100%	➡	a	4		
	教員	地域・保護者へ、積極的に情報発信を行っている。	73%	➡	c	2		
2.8						C ↓ C		

＜アンケート集計から自己評価までの流れ＞

① アンケート結果から、それぞれの項目をa~dの4段階に評価する

- 「そう思う」+「だいたいそう思う」が90%以上 ⇒ a
- 「そう思う」+「だいたいそう思う」が80%以上 ⇒ b
- 「そう思う」+「だいたいそう思う」が70%以上 ⇒ c
- 「そう思う」+「だいたいそう思う」が70%未満 ⇒ d

② ①の4段階の評価を、a=4 b=3 c=2 d=1とし、平均を出す

③ 以下の基準で平均値から自己評価を行う

- 平均が3.5以上 ⇒ A
- 平均が3.0~3.4 ⇒ B
- 平均が2.3~2.9 ⇒ C
- 平均が2.3未満 ⇒ D

- ➡ 5%以上増えている
- ⬆ 10%以上増えている

- ➡ 5%以上減っている
- ⬆ 10%以上減っている

※令和4年度前期との比較

【保護者から】

- ・変な校則をなくしてほしい。前髪とか、シャツの色。(2年)
- 校則について職員で見直す機会をつくり、見直した校則を生徒・保護者と共有する。